

ホツキガイの成長と

輪の形成見分けについて

・A道東地方(十勝 釧路 根室)の測定資料からV

三 増 殖 部 三

貝殻の成長は貝殻の内面についている外套膜という薄い膜からカルシウムや有機物が分泌されることによつておこなわれます。外套

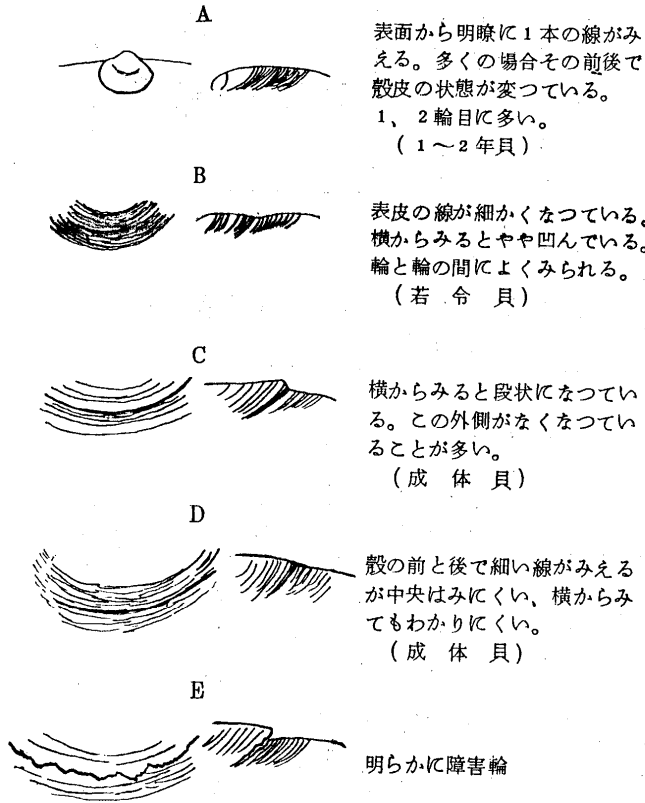
膜の周縁部はやや厚くなつていますが、この部分によつて殻の上の茶色の膜(殻皮)

と貝殻の周縁部が作られて貝殻が大きくなり、外套膜の薄い部分の全面によつて貝殻の内面が作られ貝殻は厚くなります。それで貝殻に

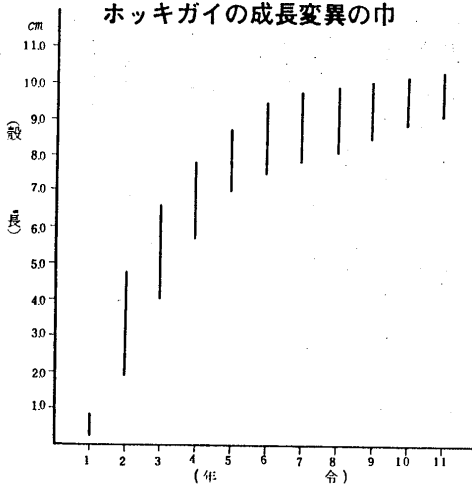
孔があいたり、ひびができて内面が補修されませんが表面は補修されません。

貝殻の表面に傷を付けると消えませんが標識に利用できます。また貝殻の形成は貝の生活の変化に応じて変り、その変化が貝殻の表面や切断面で観察されます。一度形成された部分は、ほとんどその大きさを変えませんが、この状態を調べることによつて成長や

ホッキ貝殻表面の輪型



道東地方(十勝・釧路・根室)
ホッキガイの成長変異の中



年令を調べることができません。
ホッキガイの年令は貝殻の表面に形成されている同心円輪で推定します。
浜中漁場において標識放流され三月に再捕されたものについてみますと、すでに冬輪が形成されています。一〇月に再採されたものでは未だ冬輪が形成されていません。このことからして大体一〜二月の間に冬輪が形成されると考えられます。この冬輪間にやや浅い同心円輪が認められますが、これは産卵マ

イクにあたりと考えられます。
また、ホッキガイに衝撃を与える(例えば採集したホッキガイを他の場所に移植した場合)と冬輪間に新たに輪が形成されます。これを障害輪といいます。
以上のように冬期に形成される冬輪の数を調べることによつてホッキガイの年令査定ができます。また、冬輪の間隔を測定することによつて年令の成長を知ることができま

なお、別図に示したように若令貝は可成り急速に伸長するが成体貝になると漸次成長が鈍くなつてきます。さらに高令になりますと、わずかな成長が見られる程度で、その年令査定も困難です。また同一年令でも相当成長の巾に変化があります。
また、この地方の成長輪からみると成体貝で一年間に二本の輪が形成されていますが今のところ、いつの時期にどのように輪が形成されるかつかめていません。